

令和7年度 学校評価

【教育の基本方針】(第2次尼崎市教育振興基本計画)

- 1 個人の尊厳や人権の尊重
- 2 未来志向の教育
- 3 家庭・地域社会との連携

[各校の重点取組について]
自ら学び、自他の生命を大切にする生徒の育成
協働性・向上力を有する教職員集団の形成

学 校 評 価 の 観 点

1 学ぶ力と健やかな体の育成		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得及び、思考力、判断力、表現力を育むとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による確かな学力を育成する。			
(2) 多様な視点や価値観で物事を見つめる実体験を大切にし、課題解決能力を高める学習を充実を図る。			
(3) 運動に親しむ習慣づくりを促進し、運動能力向上に努めるとともに、様々な健康課題を踏まえた健康教育を推進する。			
(4) 給食の活用等による発達段階に応じた食育を推進するとともに、家庭や地域への理解啓発を図る。			
取組	成果	課題と改善策	
○「授業改善 3 つの視点」と「協働的探究学習」を同時並行的に推進した。 ○授業デザインシートの活用を進めた。 ○「コラボる・タイム」の活用を進めた。 ○体育の授業において、毎時間補強運動を取り入れ筋力補強を行った。 ○中学校給食を通じて食育を推進した。	○授業における「めあて」と「課題」の提示を実施できた。 ○「コラボるタイム」による協働的な学習を推進することができた。 ○授業デザインシートの活用を通じて、単元を通して指導計画を立てるように取り組んだ。 ○食育を進めることで学校給食での衛生面で高い意識をもって配膳等ができる。 ○家庭科の栄養指導により、残飯が少なくなっている。	○協働的な学習を学力向上にいかにつなげるかが重要な課題となっており、今後より研究を進めていく。 ○授業における「課題」の設定を「中心的な発問」の中に設定できるように考えていきたい。 ○生徒の学習習慣が身につくような宿題・課題の出し方について研究を進めていく。 ○「授業の質を高める」という教員への意識付けをどう行うかを研究推進委員会として検討していきたい。	

2 多様性と包摂性のある教育の推進		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 支援を必要とする子ども一人ひとりへの多様な教育ニーズに対応するとともに、学校外のグラデーションある学びの場や他機関等との連携を推進する。 (2) インクルーシブ教育の推進と合理的配慮の提供に向けた体制の整備による切れ目のない支援の充実を図る。 (3) 共生社会の実現に向け、違いを認め合い、多様な文化的背景をもつ人々と豊かに共生する心、共に生きようとする意欲や態度を育む。			
取組	成果	課題と改善策	
○学校別室(ノース)や「ほっとすてっぷ」、フリースクールとの連携を行い、対象生徒の居場所の安定を図る。 ○個々の教育的ニーズに応じた合理的配慮の提供に取り組む。 ○通級などで、コグトレを活用し、生徒の認知機能を高め、学びの土台を固める取組を行う。	○学校へ登校できない生徒の居場所としてほっとすてっぷやフリースクールへ繋げることができた。 ○市教委の巡回相談を活用し、支援が必要とされる生徒の特性をアセスメントし合理的な配慮を行った。 ○通級を希望する生徒に対して適切な指導を行い、本人の学習意欲や学習システムを向上させた。	○学校以外の教育機関に行く生徒は増えてきているが、不定期な出席であり安定した通級にまで至っていない。 ○一部の生徒は発達的な課題を診断して対応をできているが、まだ多くの生徒が学習に関して苦しんでいると思われる。 ○本校では、通級を希望する生徒は多いが、市の配置される時間が限られており、できれば常駐にしてもらいたい。	

3 豊かな心の育成といじめ防止の取組		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤に、自他の人権を守り、人権課題を解決しようとする実践的行動力を育成する。 (2) 命を大切にす心や思いやりの心、規範意識等の醸成に向け「道徳教育」や「心の教育」やその充実を図るとともに、様々な体験活動を通して豊かな人間性と社会性を培う。 (3) 一人ひとりの違いを認め合う仲間づくりを推進し、道徳科や特別活動、体験学習等を通じていじめの未然防止に努めるとともに、早期発見、早期対応に取り組む。 (4) 尼崎市の歴史や伝統・文化への理解を深めるとともに地域への愛着等、児童生徒の感性を高め、豊かな情操を養う。			
取組	成果	課題と改善策	
○地域総合センター今北の人権文化祭への出展に協力するため、学校全体で「人権作文」と「人権ポスター」へ取り組む。 ○道徳や心の教育を通じた命や性についての教育を行う。 ○定期的ないじめアンケートだけでなく教育相談や日頃の関りから、いじめの早期発見と早期対応に努める。 ○地域のイベントへの積極的な参加を促し、将来にわたり地域を愛し地域を守り創造する意識の育成への取組。	○1学期に全生徒に対し人権作文と人権ポスターの作成に向けた取組が積極的に行われた。 ○学年毎に発達段階に応じた性教育の研修会を行い、命と性について学習を深めた。 ○生徒指導委員会を中心にいじめ対応を適切に実施し、小さいいじめにも丁寧に対応をすることができた。 ○地域の夏祭り(夜店・盆踊り)に参加し盛り上げることができた。	○教科、道徳だけでなく人権・同和問題に関する講演会を実施するなど、学校単位で学習する機会をつくりたい。 ○SCの配置が週1回だけなので、できれば複数回の派遣をしてもらえると会議体へ参加も可能でよりチーム学校としての機能が強化される。 ○地域のイベントへの参加が生徒会執行部が中心であるため、一般の生徒も進んで参加できるようにもって行きたい。	

4 教育環境の整備と教員の育成・勤務環境の整備		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) ICTを活用した更なる多様な学びを実現を目指して、ICTを活用した学習のデジタル化を積極的かつ効果的に推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 (2) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導力の向上を図る。 (3) 社会的な良識と人権感覚、高いコンプライアンス意識を持ち、子どもや保護者、地域社会から信頼される教員の育成を図る。 (4) 教員の働き方改革を推進するとともに、風通しの良い職場環境づくりを進め、働きがいのある学校園づくりを進める。			
取組	成果	課題と改善策	
○学習状況によりICTを効果的に活用する。 ○「コラボるタイム」の活用による主体的・対話的で深い学びの実現。 ○教職員のコンプライアンス向上と非違行為防止に向けた取組の実施。 ○業務改善を前面に押し出し「働きやすさ」と「働きがい」のある職場への意識付けを行う。	○授業におけるタブレットの活用状況について効果的、効率的に活用できた。また、振り返りやアンケートなどでも活用することで、時間的な効率化が進んだ。 ○さまざまな場面でのコラボるタイムを活用し生徒の自主的学習意欲を向上することができた。 ○業務改善による職員のゆとりを増やし、周囲へ相談しやすい風通しの良い職場環境を意識できた。 ○職員の月別超過勤務時間において、80時間を超える教員が0人であった。	○ICTの活用において中学校では、未だにプロジェクターで簡易スクリーンへの投影である。小学校に導入しているデジタル黒板の早期導入を市教委へ強く要望したい。 ○協働的な学びは定着してきたが、個別最適な学びとの一体化は簡単ではなく、これからの課題である。 ○働き方改革のための業務改善は進んだが、教員の協働的なチーム意識と同僚性の構築が今後の課題である。	

5 家庭地域社会一体となった教育の充実		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的推進し、「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて取り組む。 (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る。 (3) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る。			
取組	成果	課題と改善策	
(1)コミュニティスクール ・地域のお祭りを盛り上げる取組 ・地域のイベントへの参加 (2)防災教育 ・避難訓練や防災訓練の実施 ・防災教育における防災意識の向上 (3)安全教育 ・定期的な安全点検の実施 ・外部の講師による自転車安全教室の実施	○夏祭りの夜店(スーパーボールすくい、ヨーヨー釣りの手伝いを生徒会執行部で行った。 ○3年生が盆踊り大会に向けての盆踊り講習会の実施した。 ○消防署を招聘し校内での防災訓練を実施した。 ○担当学級でBFCを実施した。 ○1年生対象にに自転車安全教室を実施し自転車の危険を認識するとともに安全運転の必要性を理解させた。	○地域との取り組み積極的に行えた。 ○夜店の手伝いなどは、生徒会執行部だけであったので、今後は他の生徒にも広げたい。 ○盆踊り講習会を実施するときに熱中症の恐れがあるため、市に体育館への空調設備の設置を早急に依頼する。 ○日程調整が難しいが、避難訓練を地域の住民や施設(保育所等)と合同で実施していきたい。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
(1)教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 ・教育目標である『学び合い、支え合い、認め合える学校』に向け他者との関わりによる学習や学びでの成長を促進する。 (2)教育目標の具現化と指導の充実 ・生徒の成長や進歩を共に喜ぶ教師を目指す。 ・組織を大切にする教師を目指す。 ・変化、挑戦、創造の精神を重んじる教師を目指す。	○昨年度、学校教育目標を分かりやすく取り組みやすいものに変えた。 ○各教科でのグループ学習が定着し、学び合いが行われている。 ○教育目標を達成するための精神的安心感のある学校へ向けての教育相談等の充実が図れている。 ○変化への対応をするための「業務改善委員会」を校長主導で定期的の実施できた。	○今後、学校教育目標を教員、生徒の目につくところに掲示して意識付けを行いたい。 ○学校教育目標を学校だよりも載せ、校内だけでなく地域へのアピールを行いたい。 ○生徒会執行部からも学校教育目標を全校生徒へ啓発できる取組を検討したい。	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
○研究テーマ:「授業デザインによる”課題”の充実」～コラボるタイムの効果的な活用～の推進。 ○ハンドブック『よりよい授業をめざして』を活用した協働学習と主体的・対話的な学習の確立。 ○兵庫教育大学の山中一英教授(教育心理学、社会心理学専門)を招聘して生徒との関係性を構築するための関わりについての講演。	○生徒が主体的な学習に取り組むための“課題”を、授業における「中心的な発問」の中に設定するよう努めた。 ○授業デザインシートを活用することで、単元を通して生徒にどのような資質能力を身につけさせるのか見通しを持った指導計画を立てるように取り組んだ。 ○生徒が学習に対して意欲を向けるために教員ができる学習環境について考えることができた。	○授業力向上のために、教員の相互授業見学週間を実施したが消極的な教員もあり、学校全体で取り組む意識付けを行いたい。 ○今年度は教員の学習観の転換について学んだが、次年度は実践的な具体的指導方法が分かる講師を招聘したいと思う。	